

# 私の考える地域力創造のポイント

内閣官房地域活性化伝道師  
総務省地域力創造アドバイザー  
前・自治財政局長  
元・地域力創造審議官

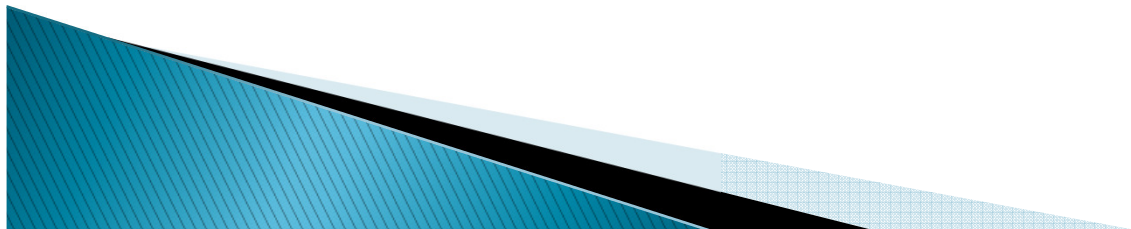
椎川忍

# 地域力とは？

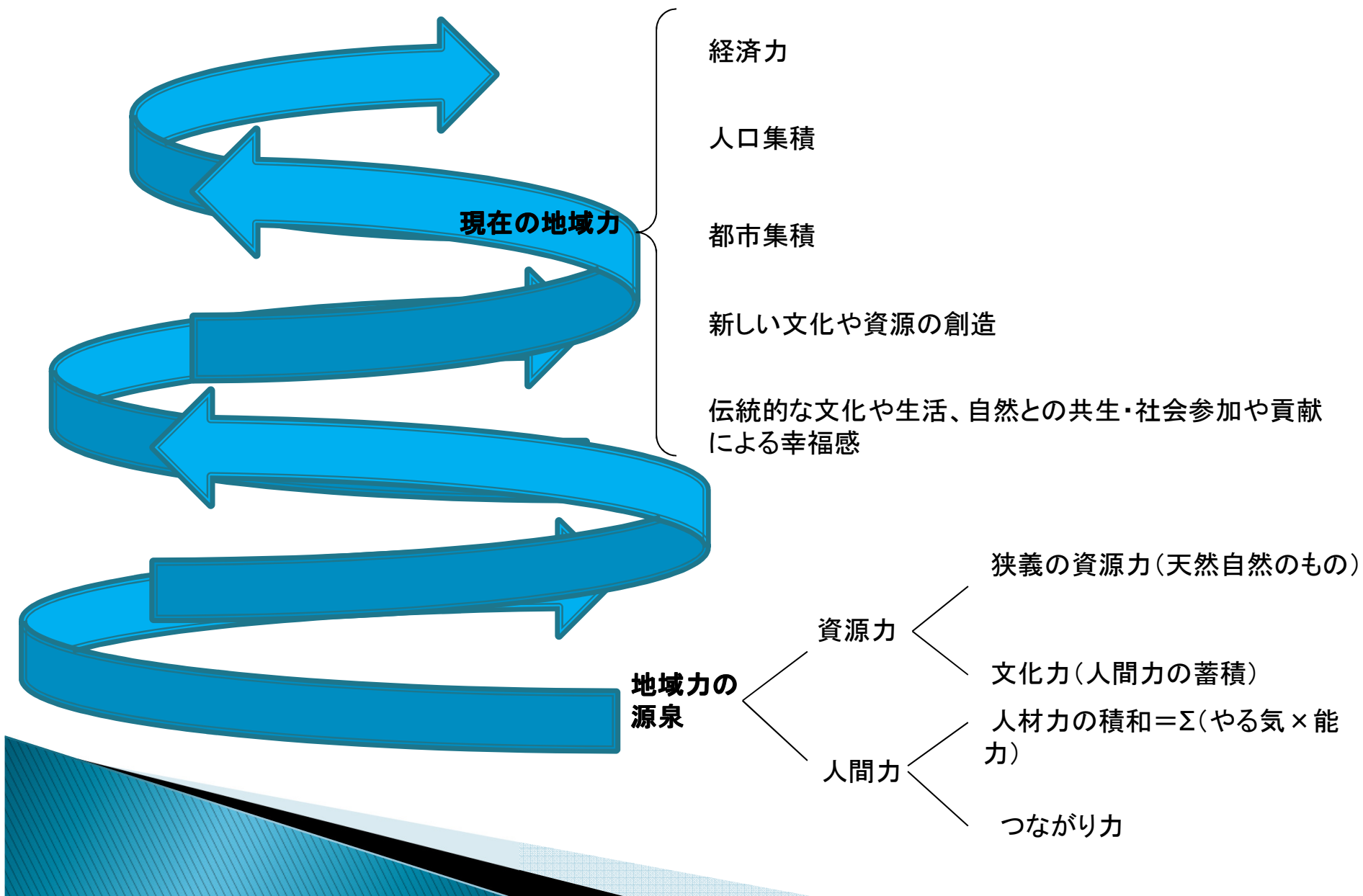
- 地域には、結局「ヒト」と「モノ」しかない
- 地域力は「資源力」と「人間力」だ
- 地域資源には、「天然自然のもの」と人間力の蓄積である「文化」がある
- 人間力＝「 $\Sigma(\text{やる気} \times \text{能力})$ 」プラス「つながり力」
- やる気はマイナス100からプラス100、能力は0から100と考える

# 地域力創造の基盤は人間力

- 地域には「ヒト」と「モノ」(地域資源)しかない
- 地域資源をどう活用するかも、結局は「ヒト」の力
- 「ヒト」の力とは、個々人のやる気や能力である「人材力」と総体としての「人間力」
- 人間力＝「 $\Sigma$ (やる気×能力)」プラス「つながり力」
- 地域内でつながること＝絆の再生
- 地域外とつながること＝ネットワーク形成



# 地域力のバロメーター



# ネオ内発的発展論

＝地域にあるもの＋外部の人材、  
ノウハウ、資本

- 「ネオ内発的発展論」  
(小田切徳美先生、英 Hubbard/Gorton)
- ICTの発達と地方分権時代の到来により、容易に展開
- イギリスと違って、わが国は政策的後押しが必要  
(ex 地域おこし協力隊、集落(復興)支援員、地域力創造アドバイザーなどの制度化)




# ネオ内発的发展


＝緑の分権改革（民主党を中心とする政権）  
＝地域経済循環創造事業（自公政権）

- ・ 言葉は変わっても政策理念は変わらない
- ・ 明治維新以来の「脱亜入欧路線」と「内発的发展論」の二大潮流
- ・ 文明開化、戦災復興、高度成長という経済至上主義の流れのなかで、アンバランスな構造に
- ・ 文明の転換点にある今こそ、ハイブリッドな国家・社会構造をめざすべきとき
- ・ 歴史に学び、サステナブルな構造へ
- ・ 原発事故や大災害が起こる前に気づくべきだったが、、、

# 「緑の分権改革」を進め、ハイブリッドな国家、 社会構造の構築をめざす


- 超近代主義と脱近代主義
  - 原子力発電と再生可能エネルギー
  - トリクルダウンとファウンテンモデル
  - グローバルな経済競争と日本にしかない良いところの追求
  - 市場経済(お金)と社会関係資本(人のつながり)
  - 西洋文明と日本の伝統、文化
- 

# 「緑の分権改革」の検討課題（例）

- 再生可能エネルギー（全量固定価格買取制度）
  - 森林の再生
  - 耕作放棄地対策
  - 1次産業振興、6次産業化、自然農法
  - 食糧自給、地産地消
  - 水源保全と水の問題
  - 小さな観光（地域おこし）
  - 古民家再生、町並み保存
  - 地域ファンド（資本循環）
  - 地域通貨（経済循環）
  - 高等教育システム
- 



# いま、文明の転換点を生きる私たち

- **世界中の有識者の共通認識**  
～今の文明はあと30年～50年しかもたない
  - 多くの人には、まだ認識できないでいるが、、、
  - 東日本大震災、福島第一原発事故で気づき始めた人もある
  - 化石燃料の枯渇、環境破壊、人口爆発、食糧問題など
  - 現在の文明（科学技術に支えられた近代主義、都市中心の文明、市場経済、資本主義、人間による自然支配、利己主義）
  - 今後の文明（脱近代主義、農村の良さを見直す、お金に変えられない価値を重視、自然との共生、利他の心）
- 

# 最近共感していること

**京都大学佐伯啓思教授 「文明の危機と世界観の転換」  
リスボン大地震(1775)→カント「判断力批判」(近代主義思想の登場)**

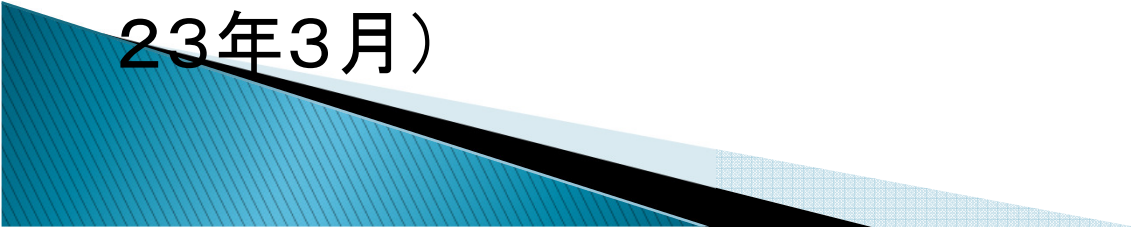
(大自然の脅威に絶望的な恐怖を感じつつ、叡智的存在としての人間は、自然を支配できる。合理的な理性の作用により、近代科学と近代技術を生みだし、自然の制約から解放され、自立し、自らの手で無限に幸福を増進できる)

**原発事故は、近代文明への警鐘か障害か？**

(警鐘と考えれば「脱近代主義」へ向かい、障害と考えれば「超近代主義」へ向かう)

**結局は、当面は「超近代主義」を軸にしながら、徐々に「脱近代主義」に転換するしかない。戦略的には両者のベストミックスしかない**

# 地域経営をする人材の中心は公務員

- 役場の管理運営や制度の運用だけでは、ミッションを果たしたことになる
  - 地域そのものを元気に！地域に住む人たちを幸せに！
  - 公務員の最終ミッション(片山善博氏)、立ち位置(北川正恭氏)を再確認せよ
  - 「住民協働」や「新しい公共」などという前に、まず自分たちが実践活動をすべき
  - 「公務員参加型地域おこしのススメ」(椎川)
  - 地域に飛び出す公務員ネットワークの結成(平成20年秋)
  - 地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」の結成(平成23年3月)
- 

# ご静聴ありがとうございました

総務省地域力創造・緑の分権改革アドバイザー

前・自治財政局長、元・地域力創造審議官（初代）

元・自治大学校長（第43代）

内閣官房地域活性化伝道師

地域に飛び出す公務員ネットワーク代表

NPO法人大山中海観光推進機構（大山王国）理事

NPO法人地域力創造研究所副理事長

（財）地域活性化センター・（株）ぐるなび 顧問

（株）日立製作所、情報・通信システム社 社長付

椎川 忍